

自分たちの街だから、 自分たちで守りたい。

普段、なにげなく付き合っている隣近所の人々。もし、大地震が起きて、隣近所から火がでたり、ケガ人がでたりしたら、あなたはどのように行動しますか、頼りにしている消防車や救急車が遅れ、救助活動が思うようにできないこともあります。このような非常時にこそ、頼りになるのは隣近所の人々。そのため街ぐるみで一致協力して助け合おうというのが「自主防災組織」です。自分たちの街は自分たちの手で守っていかなければなりません。そのためには、日頃から地域ぐるみで、出火時の防災や、わが家の安全点検、隣近所の協力体制などを確認し合って連帯意識を高めることが大切です。そして、災害が発生した時には、日頃の訓練で得た知識や技術をすばやく実行できるようにしておきましょう。災害を最小限に食い止めるのは、自分たちの力。あなたも「自主防災組織」の大切なメンバーのひとりなのです。

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
 そなえ…したく、用意、警戒、防備
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!



1990	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
4	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30

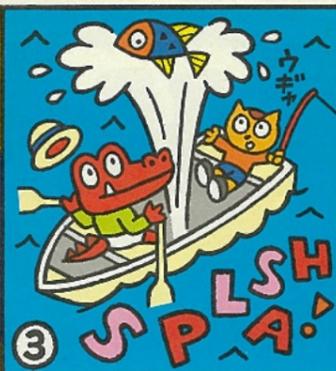
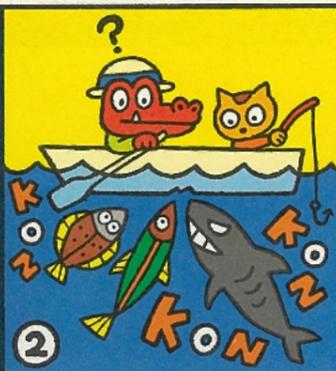
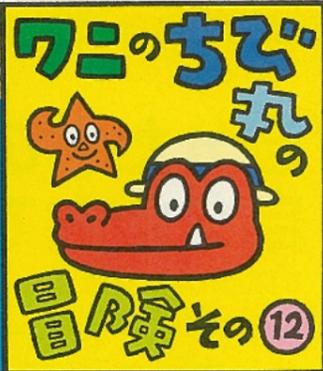
■毎月15日は川崎市民地震防災デーです。



かわさき NO
防災広報紙

1990年(平成2年)3月31日発行
 発行所 川崎市
 編集所 土木局防災対策室
 〒210川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL. (044)200-2111(内線2841)

68



ひとりでも備えるより 街ぐるみで備えましょう

自主防災組織

被害を最小限に食い止めるため

には、災害が起きた直後の対応が非常に大切です。そんなとき、災害に対してみんなで力を合わせて立ち向う組織が自主防災組織です。川崎市では、防災対策の一環として、自主防災組織の充実強化に積極的に取り組む、組織率100%を目指しております。自分たちの街を災害から守るために、まだ自主防災組織のない町内会、自治会は、是非結成されるようお願いいたします。

●自主防災組織の結成状況●

年度	組織数	結成率%
53	116	21
54	137	25
55	228	41
56	348	62
57	385	68
58	429	76
59	471	80
60	484	81
61	494	82
62	523	83
63	529	83
平成元	543	84

自主防災組織の役割

- 災害が起きたら
- ①自分の身の安全を確認後、隣り近所へ出火防止及びけが人の有無などを呼びかける。
- ②初期消火、被災者の救出救護を行う。
- ③消防署などへの通報及び災害情報を収集して正確な情報を地域の住民へ伝える。
- ④火災の拡大、地すべり、山崩れなどの二次災害の危険が迫ったときは、安全な場所へ避難誘導する。(各組織ごとにあらかじめ避難する場所を決めておきましょう。)



平成元年度川崎市防災会議



川崎市では、自主防災組織の活性化を図るため、防災資器材の購入補助、防災訓練等を行うための活動助成金の交付を行っております。

助成制度

- ⑤炊き出しなどの給食活動や給水活動を行う。
- 普段から
- ①各家庭において、出火の防止や家具の転倒防止を行うとともに、わが家の安全対策を話し合っておく。
- ②防災集会や防災訓練に積極的に参加し、防災活動に必要な知識や技術を身につけるとともに、防災意識の啓発を図る。
- ③情報連絡や初期消火などの防災活動をするのに必要な資器材を備えておく。

詳しくは、土木局防災対策室
200-2111内2841
または、区役所の総務課までお問い合わせ下さい。

自主防災組織 リーダー研修



昨年に引き続き、「自主防災組織」のリーダーの方々を対象とした研修会を開催し多数の方の参加をいただきました。今年度は、サンフランシスコで起こったロマンブリタ地震の現地調査の結果と、そこで得た教訓をテーマに防災対策の鈴木室長が講演し、その他映画の上映を行いました。

消防局からのお知らせ

放火をされない環境 をつくらう!

平成元年の火災は429件で、このうち放火は、疑いを含めて99件(23.1%)にのぼりました。昭和51年以来なんと、14年連続トップを占めています。放火犯は、季節、地域に関係なく、深夜に屋外やアパートの共用部分の燃えやすい物を狙っています。

放火内訳ベスト10
(「放火自殺」「自分の家に火をつけた」等を除く)

1位	路上のゴミ等	12件
2位	敷地内のゴミ等	9件
3位	物置・空家内の紙類等	8件
4位	ゴミ集積場所	7件
4位	共同住宅等の共用部分にある紙類等	7件
6位	居室内に侵入して	6件
7位	路上等のバイク	5件
8位	駐車場の車カバー等	5件
9位	建物の外壁等	4件
10位	コインランドリー内の紙類等	3件

放火を防ぐには

- ・建物のまわりの燃えやすい物は、整理しましょう。
- ・アパートやマンションは、特に玄関や共用廊下に燃えやすい物を置かないようにしましょう。
- ・物置、空家、空室は戸締りを完全にしましょう。
- ・ごみ類は、指定された日の朝に出しましょう。

サンフランシスコで

土木局
防災対策室長
鈴木 慎一郎

昨年10月17日、午後5時4分(現地時間)サンフランシスコ一帯に大地震が発生し、近代都市の弱点をさらけ出した惨状は、未だ記憶に新しいところでありました。高速度道路の崩壊、液状化による建物・ライフラン等の被害、災害情報の活用、ボランティア活動等災害現場の様子がテレビ、新聞等を通じて、日本に報道され、多くの教訓を与えてくれました。地震災害の最も心配されるのが、二次災害の火災であり、パニックの発生といわれています。今回の地震の被害が局所的だったとはいえ、街は驚くほど平穏であり、パニックは起こりませんでした。

私は、ロマンブリタ地震地方公共団体調査チームの一員として11月16日、29日までの間に各地を訪問調査しました。そこで特に印象に残った点をいくつか掲げてみます。

○救助・救急活動は、高度な医療技術等の資格講習を受けたパラメディック(医療補助員)と質の高い装備に支えられ多く救命事案と、悲惨な現場に臨み、精神的安定をほととすための心理学者を配置し、大変効果を発揮しました。

○消防活動は、マリナー地区の消防栓が使用不能になったので、消防艇で取水し、ポータブルウォーターシステム(可搬式分岐装置)を中継した多口放水により効果を発揮しました。

○ボランティア活動は、交通整理やがれきの除去などあらゆる災害現場で活躍し、なかでも赤十字は、それぞれ専門別に研修を行ない、マネージメント或いは医療の補助が出来るよう訓練されており、多数の飛入りボランティアを含め、二次災害の軽減に役立ちました。

○市民への情報伝達活動は、市長等が新聞、ラジオを通じて、市民への援助内容の伝達、市外の人には、できるだけ市内へ立ち入らないように、市外から被害地域への電話をかけないように、などを迅速・適切に伝える配慮がなされ人の安定が図られた。

○このように、今回の地震は防災関係機関と市民が一体となり互助の精神が大きな力になったことを教えてくれました。

地震国の宿命を負っている私達は、地震を正しく恐れ、地震に立ち向う街づくり、市民づくりに努力していかなければならないことを痛感しました。

お知らせ

毎月ご愛読ありがとうございます。
ごさいます。

さて、平成2年度より、「備える」の発行が年4回になります。質、量ともにより充実させ、防災に関し、少しでもみなさんのお役に立つ内容にしていきたいと思っています。今後ともよろしく申し上げます。

